

シイタケを核とした産業振興で未来につなぐ集落づくり（和歌山県日高川町）

事例の概要（事業名：過疎集落再生・活性化支援事業）

産業やコミュニティ機能の衰退が進んでいる集落において、**過疎生活圏(※)単位**で地域住民が中心となって「**寄合会**」を開催し、**総合的な集落の再生・活性化**に取り組む。

寒川生活圏では平成22年から寄合会を開催し、産業対策や地域活性化対策に重きを置いた計画が策定され、平成23年度から事業を実施している。

事例の内容

※過疎生活圏：昭和合併前の旧町村や中学校区等の規模

事業主体：地元住民団体、日高川町（寒川生活圏）

事業内容：

1. 産業対策（シイタケ産業の復活、寒川茶の生産拡大）
2. 鳥獣害対策（モンキードッグの導入、サルの捕獲）
3. 活性化対策（そうがわ茶屋でコミュニティ促進、ホタル祭会場整備で内外交流）

取組経過（H23年度事業）

- そうがわ茶屋オープン（毎月第2木曜日）…シイタケうどん、茶がゆ等販売
- シイタケホダ場の整備（2ヶ所0.84ha、原木約4万本分）
- サル捕獲オリの設置（1基）

事業費：平成23年度 6.7百万円（うち過疎債 2.5百万円）

事業の効果：そうがわ茶屋はH23年6月のオープンからH25年2月までで延べ1,173人（平均59人／月1回）が来店し、住民同士の交流の場として機能しており、地域住民の連帯感が強まった。

＜そうがわ茶屋と運営スタッフ（地元の方々）＞



＜寄合会の様子＞



ポイント

課題

- ・基盤産業であるシイタケ産業の復活
- ・地域資源を活かした加工品の開発、販路開拓
- ・住民同士の交流の場の創出
- ・地域外との交流促進

目指すべき姿

- 寒川型産業の創出で元気な集落の形成
- 交流の場を創造し、交流人口を増加

寄合会での議論を基に、地元のニーズを事業化し、総合的な過疎対策を実践

＜寄合会参加者＞

- 地元住民
区長、議会議員、
各種団体役員等
- 市町村職員
- 県職員